
キヤノン株式会社

2022年第2四半期 決算説明会

2022年7月26日

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

■ 2022年2Q実績	P 2~4
■ 2022年最新見通し	P 5~7
■ ビジネスユニット別詳細 (2022年2Q実績/2022年最新見通し)	P 8~14
■ 財務状況	P 15~16
■ サステナビリティへの取り組み	P 17
■ グローバル優良企業グループ構想PhaseVI	P 18
■ 参考資料	P 19~21

2022年 2Q実績のポイント

- 世界経済の不透明感増大も、当社製品需要は堅調
- 2Qは製品供給を増加させ、6四半期連続の増収
- コスト増の中でも価格対応や経費の抑制により2桁営業増益を達成

(億円)	2022年 2Q実績	2021年 2Q実績	対前年
売上高	9,988	8,819	+13.3%
売上総利益 (売上総利益率)	4,640 46.5%	4,176 47.4%	+11.1%
経費 (経費率)	3,655 36.6%	3,403 38.6%	
営業利益 (営業利益率)	985 9.9%	773 8.8%	+27.4%
税引前利益	852	858	-0.7%
純利益 (純利益率)	590 5.9%	611 6.9%	-3.5%
USD	129.68	109.48	
EUR	138.11	131.94	

2

当四半期は、ロシア・ウクライナ問題や上海ロックダウンの長期化、世界的なインフレの加速など世界経済の先行きに不透明感が増しておりますが、当社製品に対する需要は引き続き堅調に推移しました。一方、上海ロックダウンの影響は想定以上であり、当四半期に計画していた数量を生産することができず、第3四半期の販売に影響が出てきますが、当四半期は在庫を活用して売上を伸ばしました。

売上高は前年から13.3%増加し、1兆円に迫る9,988億円となり、6四半期連続の増収を達成しました。

利益については、部材や物流コストの高騰の影響を引き続き受けておりますが、適切な価格対応に加え、フルサイズカメラや中高速カラー複合機など高価格帯製品の販売比率を高めました。また、売上が増える中でも経費増加を抑えたことで、営業利益は対前年27.4%増の985億円と、大幅増益となりました。

税引前利益と純利益については、6月の急激な円安進行による親会社のグループファイナンスの外貨建て借入金から生ずる為替差損により、それぞれ対前年0.7%減の852億円、対前年3.5%減の590億円となりましたが、下期の増益に向けて第1四半期から着実に伸ばすことができました。

2022年 ビジネスユニット別PL(2Q)

- 全ビジネスユニット増収増益
- メディカルの利益率は第2四半期としては過去最高の7.0%

(億円)		2022年 2Q実績	2021年 2Q実績	対前年
プリンティング	売上高	5,675	4,896	+15.9%
	営業利益	666	638	+4.4%
	(%)	(11.7%)	(13.0%)	
イメージング	売上高	2,009	1,698	+18.3%
	営業利益	324	209	+54.8%
	(%)	(16.1%)	(12.3%)	
メディカル	売上高	1,182	1,118	+5.8%
	営業利益	83	37	+125.0%
	(%)	(7.0%)	(3.3%)	
インダストリアル その他	売上高	1,437	1,381	+4.1%
	営業利益	160	155	+3.6%
	(%)	(11.2%)	(11.2%)	
全社消去	売上高	-315	-274	-
	営業利益	-248	-266	-
連結合計	売上高	9,988	8,819	+13.3%
	営業利益	985	773	+27.4%
	(%)	(9.9%)	(8.8%)	

3

全てのビジネスユニットで増収増益となりました。

プリンティングは、オフィスへの出社人数が回復途上であり、製品の供給も十分でない中でも、これまでに行ってきた海外の販売会社を中心とする構造改革や製品プラットフォーム集約など収益基盤強化の成果により2桁の収益性を維持しております。

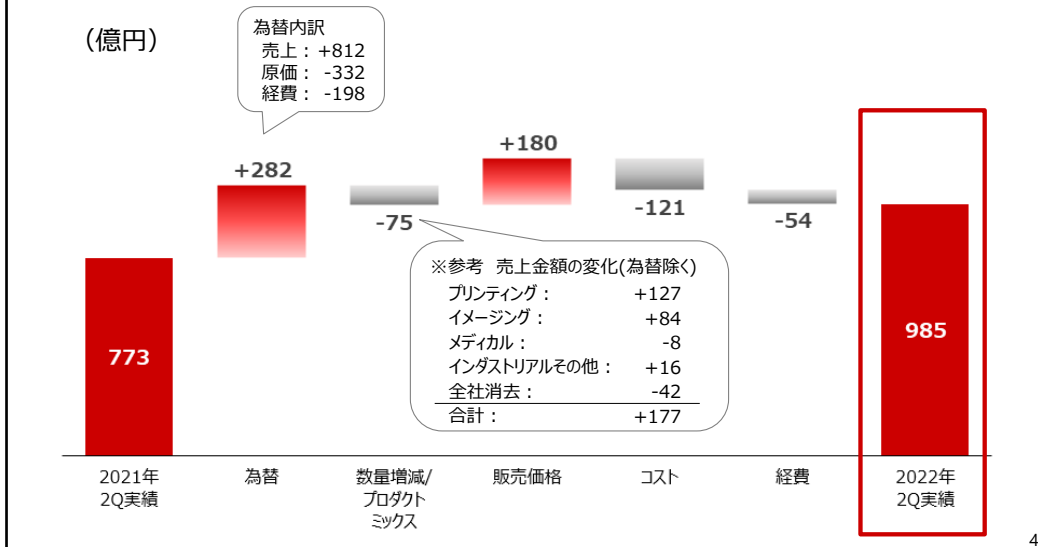
イメージングは、カメラ本体の販売台数が供給不足により依然として前年を下回っていますが、好調な交換レンズの売上に支えられて2桁の増収増益となり、営業利益率は16.1%まで高まりました。

メディカルは、米国での売上成長に加えて、昨年販売台数の多かったCTのサービス収入増加もあり、営業利益率は第2四半期としては今までで最も高い7.0%となりました。

インダストリアルその他は、半導体露光装置の販売台数増加により増収増益となりました。

2022年 営業利益分析(2Q)対前年

- 対ドル、ユーロともに大幅な円安により、プラス影響
- コストアップ影響は、販売価格に反映してカバー



営業利益の変化を要素別に見ますと、

「為替」は、昨年から対ドルが約20円、ユーロが約6円の大幅な円安となり、282億円のプラス影響となりました。

「数量増減」については、プリンティングが本体の販売台数を伸ばした一方、インクジェットプリンターの消耗品売上が減少したことでマイナスとなりました。

「コスト」については部品代・物流費ともに大きく増加しましたが、「販売価格」に適切に反映することで、その影響をカバーしております。

2022年 最新見通しのポイント

- 需要は引き続き堅調も、新たな部品不足により台数見通し引き下げ
- 価格対応やプロダクトミックス改善で数量影響の一部を吸収。為替の円安も加わり、業績見通しを引上げ

(億円)	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回	
売上高	40,800	35,134	+16.1%	39,800	+1,000	
売上総利益 (売上総利益率)	18,500 45.3%	16,278 46.3%	+13.7%	18,000 45.2%	+500	
経費 (経費率)	14,740 36.1%	13,459 38.3%		14,400 36.2%	-340	
営業利益 (営業利益率)	3,760 9.2%	2,819 8.0%	+33.4%	3,600 9.0%	+160	
税引前利益	3,780	3,027	+24.9%	3,700	+80	
純利益 (純利益率)	2,620 6.4%	2,147 6.1%	+22.0%	2,520 6.3%	+100	
USD	128.37	109.93		119.16		22年3Q-4Qの為替影響額 (1円の変動による影響)
EUR	136.28	129.94		130.09		
						売上
						営業利益
						USD 63億円 19億円
						EUR 32億円 16億円

5

下期の前提となる為替レートについては、ドルを133円、ユーロを138円としております。

当社の6月末バックオーダーは3月末から大きな変動はなく、当社製品については引き続き堅調な需要が見込まれ、下期の生産数量を最大限増やし市場に供給することで、各製品の販売台数を上期から大きく伸ばす計画です。

部品不足については設計変更による代替部品の使用や調達先の拡大などの対策が進んでおりましたが、上海ロックダウンにより新たな部品が不足し、プリンティング機器やカメラを中心に生産に遅れが出ております。年内に全て挽回することが難しいレーザープリンターやカメラについては販売台数見通しを引き下げますが、売価改定とプロダクトミックスをより高単価の製品にシフトさせることで一部を吸収し、円安の追い風も加わることで全社の年間の業績見通しを上方修正します。

売上高は前回から1,000億円引き上げて、対前年+16.1%の4兆800億円、営業利益については対前年+33.4%の3,760億円、純利益については対前年+22%の2,620億円を見込んでおります。

2022年 ビジネスユニット別PL(年間)

- 全てのビジネスユニットで増収増益
- メディカルは昨年の業績を更新し、利益率は7.9%

(億円)		2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
プリンティング	売上高	23,200	19,388	+19.7%	22,542	+658
	営業利益	2,519	2,257	+11.6%	2,438	+81
	(%)	(10.9%)	(11.6%)		(10.8%)	
イメージング	売上高	7,711	6,535	+18.0%	7,514	+197
	営業利益	981	787	+24.6%	936	+45
	(%)	(12.7%)	(12.0%)		(12.5%)	
メディカル	売上高	5,092	4,804	+6.0%	4,971	+121
	営業利益	400	294	+36.0%	381	+19
	(%)	(7.9%)	(6.1%)		(7.7%)	
インダストリアル その他	売上高	5,982	5,457	+9.6%	5,865	+117
	営業利益	568	443	+28.2%	604	-36
	(%)	(9.5%)	(8.1%)		(10.3%)	
全社消去	売上高	-1,185	-1,050	-	-1,092	-93
	営業利益	-708	-962	-	-759	+51
連結合計	売上高	40,800	35,134	+16.1%	39,800	+1,000
	営業利益	3,760	2,819	+33.4%	3,600	+160
	(%)	(9.2%)	(8.0%)		(9.0%)	

6

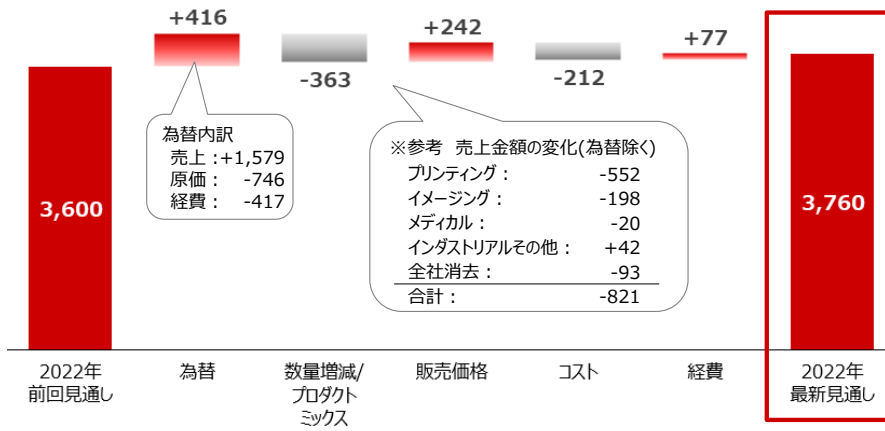
4つのビジネスユニット全て増収増益の計画であり、プリンティング、イメージングは2桁の利益率を見込んでいます。

メディカルについては、昨年の最高業績をさらに更新し、利益率を7.9%まで高めることを目指していきます。

2022年 営業利益分析(年間)対前回

- 為替は、円安を踏まえ、対ドル、ユーロともに前提レートを見直し
- 数量確保を優先し、部品コストが増加するも、価格改定により吸収

(億円)



営業利益の前回見通しからの変化を要素別に見ますと、

「為替」は、対ドル、ユーロともに、円安の状況を踏まえて下期の前提レートも見直したため、416億円のプラス影響となります。

「数量増減」については、カメラやレーザープリンターは年内に生産遅れをすべて挽回することが難しく、プリンティングのノンハードについても需要の見直しを引き下げたことにより、マイナスとなります。

物流コストは前回から大きな変動はありませんが、部品については代替部品の使用や様々なルートからの調達など数量の確保を優先しているため、前回から200億円以上の増加を見込んでおりますが、「販売価格」の改定を行い吸収してまいります。

プリンティング（オフィス）

Canon

- 2Qはカラー中高速機増と価格改定で販売台数減を補い増収
- 生産数量引上げとプリントボリュームの回復により年間2桁増収を目指す

(億円)

	2Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
オフィス	2,155	1,938	+11.2%	9,041	7,571	+19.4%	8,810	+231
プロシューマー	2,639	2,242	+17.7%	10,699	8,925	+19.9%	10,508	+191
プロダクション	881	716	+23.1%	3,460	2,892	+19.6%	3,224	+236
売上高計	5,675	4,896	+15.9%	23,200	19,388	+19.7%	22,542	+658
営業利益	666	638	+4.4%	2,519	2,257	+11.6%	2,438	+81
%	11.7%	13.0%		10.9%	11.6%		10.8%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年 2Q実績	2022年 最新見通し
オフィス	+3.5%	+12.2%
プロシューマー	+6.3%	+10.9%
プロダクション	+11.4%	+9.1%
合計	+5.9%	+11.1%

■ 台数伸び率

	2022年 2Q実績	2022年 最新見通し
オフィス複合機	-15%	+13%



『imageRUNNER ADVANCE DX C5800』
シリーズ

8

プリンティング機器の市場は、各企業がオフィス出社と在宅を組み合わせた最適なワークスタイルを模索する中、オフィス出社人数が緩やかながら回復するとともにオフィス向けの投資が進んでおり、また、家庭向け機器も安定した需要が継続しているのに対し、部品不足により十分な製品供給が行えていない状態が継続しています。

オフィス複合機の当社第2四半期は、製品供給不足により本体販売数量は引き続き前年を下回りましたが、プラットフォームを刷新した imageRUNNER ADVANCE DX C5800シリーズを中心としたカラー中高速機の比率上昇や価格改定により、売上は前年を上回りました。

下期については、半導体などの部材調達には目途がついてきており、上海ロックダウンの影響で遅延した生産の挽回を図り、生産数量を引き上げて販売に繋げていきます。プリントボリュームは回復のペースが当社の想定を下回っていますが、オフィス出社人数が回復するにつれて今後も徐々に増加する見込みであり、第4四半期にはコロナ前の8割程度の水準で落ち着くと見込んでいます。

プリンティング（プロシューマー）

- 2Qは本体売上が大きく伸びたが、ロックダウンで生産は計画を下回る
- 下期は生産量を可能な限り引き上げ、販売台数の大幅増を目指す

(億円)

	2Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
オフィス	2,155	1,938	+11.2%	9,041	7,571	+19.4%	8,810	+231
プロシューマー	2,639	2,242	+17.7%	10,699	8,925	+19.9%	10,508	+191
プロダクション	881	716	+23.1%	3,460	2,892	+19.6%	3,224	+236
売上高計	5,675	4,896	+15.9%	23,200	19,388	+19.7%	22,542	+658
営業利益	666	638	+4.4%	2,519	2,257	+11.6%	2,438	+81
%	11.7%	13.0%		10.9%	11.6%		10.8%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年 2Q実績	2022年 最新見通し
オフィス	+3.5%	+12.2%
プロシューマー	+6.3%	+10.9%
プロダクション	+11.4%	+9.1%
合計	+5.9%	+11.1%

■ 台数伸び率

	2022年 2Q実績	2022年 最新見通し
LP	+31%	+22%
インクジェット	+17%	+34%



大容量インクモデル

『GX5030』

9

第2四半期は、本体の売上が前年を大きく上回りましたが、生産についてはバックオーダーの年内解消に向けて大きく伸ばしていく計画であったのに対し、上海ロックダウンの影響を受けて予定していた数量を生産することができませんでした。

そのためレーザープリンターについては年間の販売数量を引き下げますが、売上への影響を最小限に抑えるためにプロシューマー全体で価格改定を行い、さらに大容量インクモデルなど高価格帯製品の比率を高めていきます。生産についても今後可能な限り数量を引き上げ、下期の販売台数を上期と比べレーザープリンターで約2割、インクジェットプリンターでは約3割増やして、来年以降の消耗品の売上増加に繋げていきます。

プリンティング（プロダクション）

Canon

- 連帳機、カットシート機ともに大型印刷機の受注が好調
- ノンハード売上は、市場稼働台数増により安定成長を継続

(億円)

	2Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
オフィス	2,155	1,938	+11.2%	9,041	7,571	+19.4%	8,810	+231
プロシューマー	2,639	2,242	+17.7%	10,699	8,925	+19.9%	10,508	+191
プロダクション	881	716	+23.1%	3,460	2,892	+19.6%	3,224	+236
売上高計	5,675	4,896	+15.9%	23,200	19,388	+19.7%	22,542	+658
営業利益	666	638	+4.4%	2,519	2,257	+11.6%	2,438	+81
%	11.7%	13.0%		10.9%	11.6%		10.8%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年 2Q実績	2022年 最新見通し
オフィス	+3.5%	+12.2%
プロシューマー	+6.3%	+10.9%
プロダクション	+11.4%	+9.1%
合計	+5.9%	+11.1%



高速カットシートインクジェットプリンター

『varioPRINT iX』



大判プリンター

『Colorado 1650』

10

プロダクションの市場は、経済活動の再開によりいち早く回復してきており、エネルギーや紙などの価格上昇や印刷会社における人手不足の状況のもと、コストや省力性に優れたデジタル商業印刷機へのシフトは加速しています。

当社は連帳機、カットシート機ともに大型印刷機の受注が好調であり、一部設置が追い付かない状態にあるため、要員を最適に配置して効率的に進めることで、前年比2桁増の販売台数に繋げていきます。グラフィックーツ向け大判印刷機についても、生産性と総保有コストの点で市場からの評価が高まったため、今年に入って取り扱いディーラー数をさらに伸ばすことができ、第2四半期に引き続き年間でも前年から20%以上の販売台数を計画しています。

ノンハード売上についても、グラフィックーツ向け製品の市場稼働台数増により対前年2桁の安定成長を継続しており、プリンティンググループの成長ドライバーとして売上に加えて収益面での貢献度を増してきています。

イメージング（カメラ）

Canon

- 2Qは供給不足で販売台数減も、フルサイズカメラとレンズ増で2桁増収
- Rシステム初のAPS-C機「EOS R7」「EOS R10」でユーザーを拡大

(億円)

	2Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
カメラ	1,270	1,121	+13.2%	4,997	4,331	+15.4%	4,972	+25
ネットワークカメラ他	739	577	+28.1%	2,714	2,204	+23.1%	2,542	+172
売上高計	2,009	1,698	+18.3%	7,711	6,535	+18.0%	7,514	+197
営業利益	324	209	+54.8%	981	787	+24.6%	936	+45
%	16.1%	12.3%		12.7%	12.0%		12.5%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年 2Q実績	2022年 最新見通し
カメラ	+1.8%	+4.8%
ネットワークカメラ他	+13.7%	+12.9%
合計	+5.8%	+7.5%

■ 対前年台数伸び率 (単位：万台)

	2022年2Q実績		2022年最新見通し	
	台数	伸び率	台数	伸び率
レンズ交換式	68	-7%	280	+2%



『EOS R10』

11

カメラ市場は、各社のミラーレスカメラ本体と交換レンズの新製品投入に支えられ、底堅い需要が続いています。しかしながら、昨年から続く世界的な部品不足に上海ロックダウンが加わり、需要に見合うだけの製品を供給することができておらず、今年の市場規模は昨年と同水準の545万台を見込んでおります。

当社の第2四半期についても、製品供給不足により引き続きカメラ本体の販売台数は前年を下回りましたが、下期からは生産の挽回により増加に転じる見通しです。販売台数減少の中でも、優先して生産・販売を行っているフルサイズミラーレスカメラの比率が高まったことと、RFレンズの販売が大きく伸びたことで、売上は2桁の増収となりました。

年間の販売台数は、主に上海ロックダウンの影響により280万台に見直しましたが、EOS Rシステムのさらなるラインアップ拡充として、「EOS R7」と「EOS R10」の2機種を販売していきます。この2機種はAPS-Cサイズのセンサーでありながら、上位機種である「EOS R3」のオートフォーカス被写体検出技術を継承するなど、静止画・動画撮影のあらゆる面で高い性能を備えています。プロやハイアマチュアユーザーによる用途に応じたサブカメラとしての使用や、一眼レフカメラからの買い替え、エントリー機からのステップアップを促すモデルとして期待しています。併せて、APS-C専用の「RF-S レンズ」2機種を発売しており、本体とともにさらなるユーザーの拡大を図っていきます。

イメージング（ネットワークカメラ他）

- 2Qは製品の供給量が回復し2桁を超える増収を達成
- 日本で大企業向けクラウドサービスを開始、ソリューション向上を図る

(億円)

	2Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
カメラ	1,270	1,121	+13.2%	4,997	4,331	+15.4%	4,972	+25
ネットワークカメラ他	739	577	+28.1%	2,714	2,204	+23.1%	2,542	+172
売上高計	2,009	1,698	+18.3%	7,711	6,535	+18.0%	7,514	+197
営業利益	324	209	+54.8%	981	787	+24.6%	936	+45
%	16.1%	12.3%		12.7%	12.0%		12.5%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年 2Q実績	2022年 最新見通し
カメラ	+1.8%	+4.8%
ネットワークカメラ他	+13.7%	+12.9%
合計	+5.8%	+7.5%

12

ネットワークカメラの需要は経済活動の正常化に向け引き続き強く、当社は第2四半期に入り製品の供給量が回復してきたことにより、対前年2桁を超える増収になりました。

ネットワークカメラは、カメラ本体で撮影した映像を、管理システムで保存・管理し、解析ソフトを使ってソリューションを提供していきます。映像情報は日々膨大になってきており、それらを保存し、様々なシステムと連携させながら分析結果を共有する管理システムも重要です。

当社はサーバー型の管理システムに加え、手軽に情報を連携・共有できるクラウド型管理システムの拡充を図っており、今月より日本でも大企業向けのサービスを開始しました。他社製も含め 6,000機種以上のネットワークカメラに対応しており、例えば小売業では、複数の店舗で撮影した映像情報を、クラウドを通してPOS情報と連携させ、管理拠点で買い物客の店内行動から購買までの分析を一括で行えるようになります。

今後も顧客のニーズに合わせたサービスを提供し、トータルソリューションの向上を図ってまいります。

- 2Qは米国は8四半期連続増収を達成、営業利益率7.0%まで上昇
- 過去最高の受注残のもと、年間5,000億円の売上を計画
- 7月販売代理店を買収、販売力強化で米国でのシェア10%を目指す

(億円)

	2Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
売上高計	1,182	1,118	+5.8%	5,092	4,804	+6.0%	4,971	+121
営業利益	83	37	+125.0%	400	294	+36.0%	381	+19
%	7.0%	3.3%		7.9%	6.1%		7.7%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年 2Q実績	2022年 最新見通し
合計	-0.7%	+0.5%



80列 CT
『Aquilion Serve』



MRI
『Vantage Fortian』

13

画像診断装置の市場は、部品不足により装置の供給が十分でなく、需要も国内はコロナ前の規模に落ち着いてくるものの、米国・欧州は大型装置を中心に回復してきており、全体では前年から僅かに増加すると見えています。

当社の第2四半期は、中国がロックダウンの影響を受け、また国内は昨年の財政支援を利用した機器の購入がなくなり減収となりましたが、8四半期連続の増収となった米国の成長に牽引され、売上が前年を上回りました。昨年販売台数を伸ばしたCTを中心にサービス収入も増えており、営業利益率は7.0%まで上昇しました。

下期の売上拡大に向けて受注は過去最高の水準に積み上がっており、設計変更や調達先拡大など半導体の部材確保に全力で取り組み、装置の生産量を増やすことで売上を今年5,000億円の大台に乗せる計画です。

さらに、今後の成長に向け重要地域として位置付けている米国において、先日、中西部、北西部をカバーする販売代理店のM&Aを完了しました。販売要員を個別に採用するだけでなく、代理店をキヤノンの内部に取り込んで大幅に増員し、販売テリトリーの見直しや拡充を進めて販売力を強化することで、世界市場の3割を占める米国において、マーケットシェア10%を目指してまいります。

インダストリアルその他（露光装置/産業機器） Canon

- 半導体は昨年比大幅増の年間180台、生産能力増強を進める
- FPD露光装置は、ロックダウン影響の中でも56台を販売

(億円)

	2Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
露光装置	506	511	-1.1%	2,452	2,137	+14.7%	2,438	+14
産業機器	271	347	-21.8%	988	1,218	-18.9%	1,011	-23
その他	660	523	+26.3%	2,542	2,102	+20.9%	2,416	+126
売上高計	1,437	1,381	+4.1%	5,982	5,457	+9.6%	5,865	+117
営業利益	160	155	+3.6%	568	443	+28.2%	604	-36
%	11.2%	11.2%		9.5%	8.1%		10.3%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年	2022年
	2Q実績	最新見通し
露光装置	-3.9%	+12.6%
産業機器	-23.7%	-20.1%
合計	+1.2%	+7.4%

■ 露光装置台数 (単位：台)

	2022年	2021年	2022年	2021年
	2Q実績	2Q実績	最新見通し	実績
半導体	40	30	180	140
FPD	8	17	56	67



半導体露光装置
『FPA-6300ES6a』

14

2022年の半導体デバイス市場は、IoTや車載用などに使用される半導体の数の継続的な拡大により、2桁成長となる見通しです。

当社の半導体露光装置は、旺盛な需要を背景にフル生産を続けており、第2四半期には昨年を10台上回る40台を販売し、年間では180台の販売を計画しております。さらに来年以降の需要に最大限応えるため、要員の確保やスペース拡張など生産能力の増強と、顧客先での設置体制の強化を進めています。

パネル市場は、在宅関連製品の需要が落ち着き、足元のパネル価格は下落傾向にあるものの、年間ではIT関連ディスプレイの成長が牽引し、前年比微増となる見通しです。

当社のFPD露光装置は、中国でロックダウンが実施される中でも顧客先で設置を進め、第2四半期は計画通り8台を販売しました。部品逼迫の影響も受けていますが、下期にかけて製造および設置台数を増やし、年間で56台を販売する計画です。

有機EL蒸着装置は、顧客の投資再開を待つ状況は変わらず、今年の売上は減少する見通しですが、テレビやフォルダブルスマートフォン、車載ディスプレイなど、様々な製品の需要拡大に備え、新しい装置の開発を進めて行きます。

- 販社の商品在庫は、堅調な需要に対し供給が追いつかず減少
- 生産遅延で増加した手配済み仕掛品や設置中の露光装置は生産を進め年末には適正化

(億円)

		2021年				2022年	
		3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末
プリンティング	金額	2,373	2,320	2,692	2,855	3,247	3,536
	日数	45	44	52	53	58	60
イメージング	金額	987	940	984	1,014	1,171	1,266
	日数	54	54	55	55	63	73
メディカル	金額	998	1,018	1,085	1,091	1,205	1,294
	日数	75	79	87	82	89	100
インダストリアル その他	金額	1,600	1,613	1,602	1,545	1,709	1,885
	日数	103	112	109	100	112	137
合計	金額	5,959	5,891	6,363	6,506	7,332	7,981
	日数	61	62	68	66	73	78

15

6月末の在庫は、3月末と比べ約650億円増加しましたが、およそ半分の330億円は円安により外貨建ての海外在庫が増加したことによるものです。

為替影響を除くと、販売会社在庫については、堅調な需要に対して供給が追いついていないため、すぐに販売に繋がる状態であり、約100億円減少しました。

一方、仕掛品や原材料については、部品逼迫の対策として早めに確保する動きをとっており、上海ロックダウンで想定外の部品不足が発生し生産が遅延した影響で、手配済み部品の在庫が膨らみました。

また、露光装置については下期に、上期の5割を超える販売台数増加を見込んでおり、設置中の在庫が増えています。

いずれも下期に生産を進め販売に繋げていく計画であり、12月末在庫は適正水準まで減少する見込みです。

キャッシュフロー(年間)

- 昨年を上回る2,550億円のフリーキャッシュフローを創出
- 年間配当予想を120円に引き上げるとともに、借入金返済を進める

(億円)	2022年 最新見通し	2022年 前回見通し	2021年 実績	2020年 実績
営業活動によるキャッシュフロー	4,950	4,950	4,511	3,338
投資活動によるキャッシュフロー	-2,400	-2,400	-2,073	-1,554
フリーキャッシュフロー	2,550	2,550	2,438	1,784
財務活動によるキャッシュフロー	-2,867	-2,592	-2,674	-1,834
為替変動影響	303	28	173	-1
現預金の純増減額	-14	-14	-63	-51
現預金の期末残高	4,000	4,000	4,014	4,077
手元回転月数	1.1	1.2	1.3	1.4
設備投資	2,100	2,100	1,790	1,617
償却費	2,200	2,300	2,212	2,278

16

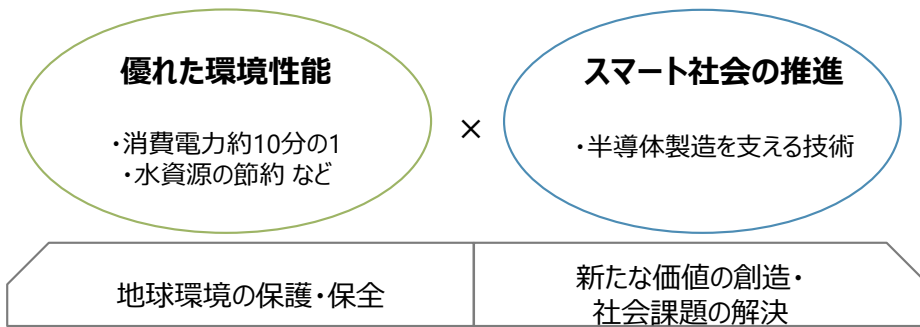
フリーキャッシュフローの見通しは前回から大きな変更はなく、成長のための設備投資やM&Aにきちんと資金を振り向けながら、昨年を上回る2,550億円を創出する計画です。

財務キャッシュフローは、5月に自社株買いを実施し、また配当については業績が昨年を大きく上回る確度が高まってきたことから、今回、年間の配当予想を20円増額し、1株当たり120円にしました。

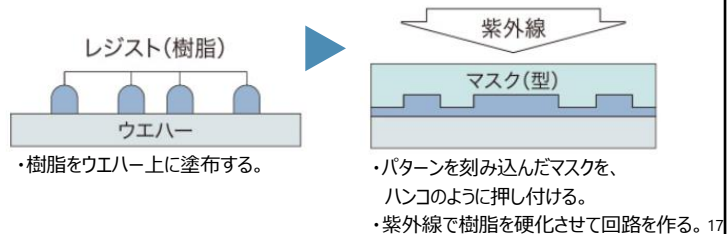
残りのキャッシュについては、手元資金4,000億円を確保しながら、借入金の返済を進めてまいります。

サステナビリティへの取り組み

■ ナノインプリントが、「環境賞」において「優良賞」を受賞



ナノインプリントの仕組み



当社は事業活動を通じて、新たな価値の創造や社会課題の解決に貢献するとともに、地球環境の保護・保全に努めています。

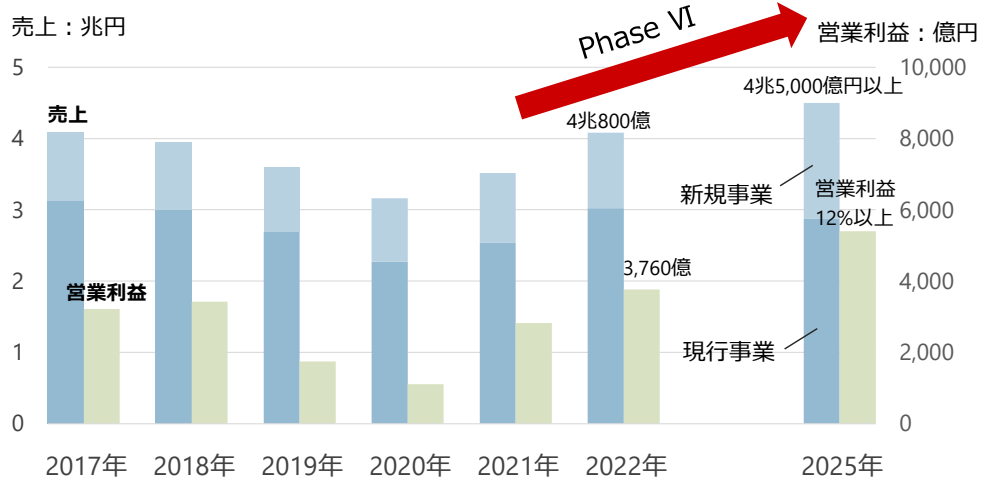
当社が開発を進めるナノインプリントは、これまでの半導体の回路を光で焼き付ける露光装置と違い、パターンを刻み込んだマスクと呼ばれる型を、ハンコのように押し付けて回路を形成するシンプルな製造装置です。微細な回路パターンを描くための複雑な工程が不要であり、半導体メーカーの手間とコストを大幅に削減できます。

また、この装置は、強力なレーザーや大掛かりな真空装置・冷却装置が必要ないため、最先端製造装置と比べて消費電力を約10分の1に抑えることができ、温室効果ガス排出量の削減や水資源の節約など地球環境負荷の低減に貢献します。

こうした優れた環境性能を、これからのスマート社会を推進するのに不可欠な半導体の製造において実現したことが評価され、環境に関する技術・製品、活動等で画期的な成果を挙げたものに対して、国立環境研究所などが授与する「環境賞」において「優良賞」を受賞しました。

グローバル優良企業グループ構想Phase VI Canon

- 厳しい環境の下でも堅調な需要と強固な収益基盤の下、業績が向上
- 売上4兆円/ここ10年での最高利益をあげ、2025年の目標達成へ



18

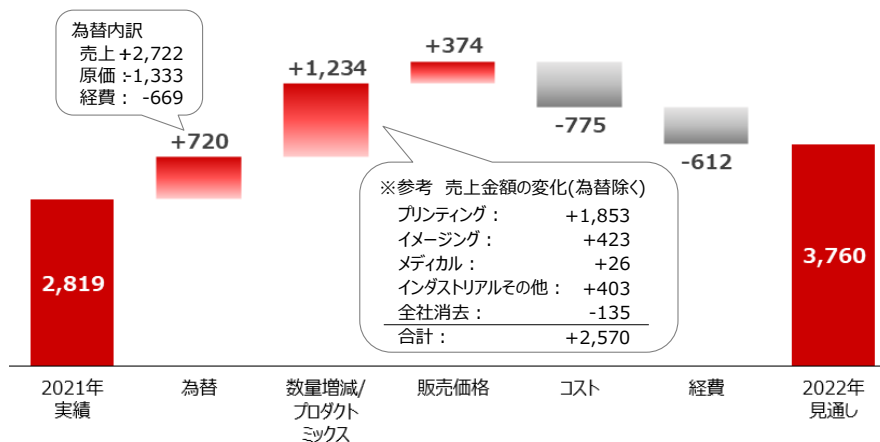
当社を取り巻く環境は、半導体不足や物流逼迫に加え、ロシア・ウクライナ問題やコロナの再拡大懸念など、先行き不透明な状況であります。しかし、当社製品に対する需要は引き続き堅調であり、またこれまで構造改革や産業別グループ化により確立してきた強固な収益基盤の下で、為替の好転も加わり、業績が着実に上向いております。

売上は2017年以來、5年ぶりに4兆円台に回帰するとともに、営業利益については2012年以降この10年間で最も高い数字を見込んでおります。下期に製品の供給に全力を投じこの計画を確実に達成することで、2025年の業績目標達成に向けて弾みをつけてまいります。

參考資料

2022年 営業利益分析(年間)対前年

(億円)



■プリンティング ハード/ノンハード別 対前年売上伸び率

			2022年		2021年	
			2Q 実績	年間 見通し	2Q 実績	年間 実績
オフィス複合機	円貨	ハード	+10%	+40%	+47%	+7%
		ノンハード	+7%	+10%	+35%	+3%
LC	円貨	ハード	-1%	+29%	+40%	+3%
		ノンハード	+0%	+3%	+30%	0%
LP	円貨	ハード	+47%	+44%	+4%	+2%
		ノンハード	+15%	+8%	+41%	+17%
LC	円貨	ハード	+31%	+33%	0%	-1%
		ノンハード	+4%	+0%	+36%	+14%
インクジェット	円貨	ハード	+35%	+49%	+24%	+6%
		ノンハード	-10%	+3%	-4%	-2%
LC	円貨	ハード	+22%	+37%	+18%	+2%
		ノンハード	-18%	-5%	-9%	-6%
プロダクション	円貨	ハード	+27%	+29%	+52%	+18%
		ノンハード	+21%	+14%	+40%	+14%
LC	円貨	ハード	+15%	+17%	+42%	+13%
		ノンハード	+10%	+5%	+32%	+9%

■ オフィス / プロシューマー 製品別売上高

(億円)		2022年		2021年	
		2Q 実績	年間 見通し	2Q 実績	年間 実績
オフィス	オフィス複合機	1,382	5,906	1,272	4,784
	オフィスその他	773	3,135	666	2,787
		2,155	9,041	1,938	7,571
プロシューマー	LP	1,762	6,765	1,414	5,631
	インクジェット	877	3,934	828	3,294
		2,639	10,699	2,242	8,925

■ レンズ交換式カメラ比率 / コンパクトカメラ台数

	2022年		2021年	
	2Q 実績	年間 見通し	2Q 実績	年間 実績
レンズ交換式カメラ比率				
金額ベース ※	93%	93%	89%	90%
台数ベース	86%	85%	70%	70%
コンパクトカメラ台数 (万台)	11	50	31	115

※交換レンズも含む

■ 半導体露光装置台数 光源別内訳

(単位：台)

	2022年		2021年	
	2Q 実績	年間 見通し	2Q 実績	年間 実績
KrF	12	48	9	38
i線	28	132	21	102
合計	40	180	30	140